

**第178期定時株主総会招集ご通知**  
**その他の電子提供措置事項**  
**(交付書面省略事項)**

会 社 の 新 株 予 約 権 等 に 関 す る 事 項  
会 計 監 査 人 の 状 況  
取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制  
そ の 他 業 務 の 適 正 を 確 保 す る た め の 体 制  
財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針  
連 結 株 主 資 本 等 変 動 計 算 書  
連 結 注 記 表  
株 主 資 本 等 変 動 計 算 書  
注 記 表

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

上記事項につきましては、法令及び当社定款の規定に基づき、書面交付請求をいただいた株主様に対して交付する書面には記載しておりません。

## 会社の新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 会計監査人の状況

### 1. 会計監査人の名称

有限責任監査法人トーマツ

### 2. 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

当事業年度に係る会計監査人としての報酬等 80百万円

当社及び当社の子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計 87百万円

(注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬の額を区分しておらず、実質的にも区分できないため、監査業務の報酬の額にはこれらの合計額を記載しております。

2. 当社の重要な子会社のうち、台湾森永製菓股份有限公司、上海森永食品有限公司、米国森永製菓株式会社の監査は、それぞれが契約する現地の監査法人によって行われております。

3. 当社は会計監査人である有限責任監査法人トーマツに対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務（非監査業務）として、国際会計基準（IFRS）導入助言業務に関し、対価を支払っております。

4. 上記以外に前事業年度の監査に係る追加報酬として、当事業年度中に3百万円を支払っております。

### 3. 会計監査人の報酬等について監査役会が同意した理由

当社監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、前事業年度における職務執行状況や報酬見積の算出根拠等を検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

### 4. 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

当社では、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、監査役会が会計監査人を解任する方針であります。この場合、解任後最初に招集される株主総会におきまして、監査役会が選定した監査役から、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告する方針であります。

なお、上記の場合のほか、適格性及び信頼性において問題があると判断した場合、監査役会は会計監査人の解任又は不再任に関する議案を決定し、取締役会は、当該決定に基づき、当該議案を株主総会に諮る方針であります。

## 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制

### 1. 基本方針

当社グループは、企業価値の最大化並びに企業の永続的発展及び強化を図ることを目的に、内部統制システムの強化及び経営の効率化を図り、業務を適正に執行するとともに、監督及び監査の実効性を高めることといたします。

### 2. 個別方針

#### (1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

職務の執行が適正に行われるために、取締役会は実効性のある内部統制システムの構築と法令及び定款等の遵守体制の確立に努めるとともに、監査役が当該システムの有効性と機能を監査する体制といたします。

また、監査部を社長直轄とし、子会社を含めた全ての部門の内部監査を行い、内部監査の実効性を高めることといたします。

「行動憲章」のもと、「コンプライアンス委員会」を設置し、子会社を含めた継続的な研修等により、コンプライアンス風土の維持・向上に努め、特に反社会的勢力とは断固として対決し、排除に努めるといふ考えに則り、反社会的勢力からの不法・不当な要求には一切応じないことといたします。

また、国内子会社を含めた「ヘルプライン」（社内及び社外）を設置し、コンプライアンス上問題となる情報を広く収集し、適切な対応を行うことといたします。

なお、財務報告の信頼性を確保するため、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に従い、適切に報告する体制を整備し、運用することといたします。

#### (2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

「文書取扱い規程」等により、重要な会議の議事録、重要事項に係る決裁申請書等（書面及び電磁的記録）について、法令及び重要度に応じて保存期間を定め、保存及び管理を行うことといたします。

#### (3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

「トータルリスクマネジメント委員会」を設置し、当社及び子会社の「トータルリスクマネジメント規程」を制定するとともに、想定されるリスクをカテゴリ別に分類及び評価し、平常時における予防対策を実施することといたします。

また、監査部は定期的な内部監査において、リスク管理の状況を監査することといたします。

クライシスが発生した場合は、状況を速やかに評価・判断し、「対策本部」の設置、情報開示等、当該クライシスの性格に応じた必要な対応措置をとるとともに、原因究明、再発防止対策を行うことといたします。

反社会的勢力に対しては、平素から関係行政機関などからの情報収集に努め、事案が発生した場合には警察等関係機関と緊密に連絡をとり、組織全体として速やかに対処することといたします。

#### (4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

「決定基準規程」の整備・運用により、当社及び子会社は、法定事項及び重要な職務の執行については取締役会で決定し、その他の職務については担当取締役等へ一部権限を委譲し、職務の執行を効率的に行うことといたします。

#### (5) 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- ① 当社は、「グループ会社運用規程」により、子会社の営業方針、営業実績、財務状況その他の重要な情報について、当社への定期的な報告を義務付けます。

② 当社は、当社グループ全体のリスク管理について定める「トータルリスクマネジメント規程」を策定し、グループ全体のリスクを網羅的、統括的に管理いたします。当社は、当社グループのリスク管理を担当する「トータルリスクマネジメント委員会」において、グループ全体のリスクを管理し、リスク管理の課題、対応策等を審議いたします。

③ 子会社は、当社に準じた手続きにより業務の執行を効率的に行うこととし、重要事項を決定する際は、「決定基準規程」に基づき、事前に当社の承認を得る体制といたします。

また、内部監査の共通化により、当社の監査部が子会社を監査し、グループ全体の業務の適正を確保することといたします。

(6) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制並びにその使用人の取締役からの独立性及び当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する体制  
監査役会が、その職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合には、補助使用人を置くことといたします。

補助使用人は、業務の執行にかかわる役職を兼務せず、もっぱら監査役の指揮命令に従い監査役を補助するものといたします。

また、補助使用人の取締役からの独立性を確保するため、補助使用人の任命、異動等の人事権にかかわる事項の決定等については、監査役会の事前の同意を得ることといたします。

(7) 監査役への報告に関する体制及び監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

常勤監査役は、取締役会の他、重要会議に出席し、取締役の職務の執行を監査する体制をとることといたします。

また、当社及び子会社の取締役及び使用人は、職務の執行に関し、重大な法令及び定款違反、もしくは不正行為の事実、又は、会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を知ったとき、又はこれらの者から報告を受けた者は、速やかに常勤監査役に報告する体制をとることといたします。

当社は、取締役及び使用人に対し、かかる報告をしたことを理由として、いかなる不利益な取り扱いもしないことといたします。

(8) 監査役の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

当社は、監査役がその職務の執行について、費用の前払いを請求したときは、当該費用が不要であると認めた場合を除き、速やかに当該費用を支払うものといたします。監査役会は、職務の遂行上必要と認める費用について、できるだけ、あらかじめ予算を計上しておくものといたします。

また、監査役が緊急又は臨時に支出した費用については、事後、会社に償還を請求することができるものといたします。

### 3. 運用状況の概要

業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は、次のとおりであります。

(1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社グループは、「行動憲章」の下、「コンプライアンス規程」に基づき「コンプライアンス委員会」を定期的開催し、コンプライアンスに関する方針の策定・見直しや活動状況のモニタリング等を実施するなど、コンプライアンス経営の構築や推進を行っております。コンプライアンスへの理解を深めるため各階層での社員研修にコンプライアンス研修を組み込むとともに、国内グループ会社で働く全従業員を対象に、コンプライアンス経営の浸透、定着度の把握を目的としてコンプライアンスアンケートを実施し、行動憲章や行動規準を意識した行動ができていないか、その他コンプライアンス上の問題がないかをモニタリングしております。アンケートの結果については、コンプライアンス委員会において経営層に報告し、検討を経ることで、森永製菓グループのコンプライアンス状況の把握や今後の対策に生かす実効性レビューを行う他、アンケート結果に応じた研修及び教育を実施するなどのコンプライアンスに関する取組みを継続的に行っております。コンプライアンス違反事案が発生した場合には、社内規程に基づき、処分や処罰を含め、厳正に対処しております。

また、当社グループの内部通報制度であるヘルプラインでは、総務部門、労働組合、常勤監査役及び顧問弁護士ではない弁護士を通報窓口とし、社内イントラネットや研修等を通じ全従業員に周知しております。相談者が被害を受けているコンプライアンス違反案件だけでなく、周りの従業員が被害を受けている場合や、違反かどうか疑問に思うあいまいな案件についても対応しています。また外部弁護士は男性と女性をそれぞれ選任し、相談者の選択の幅を広げています。通報内容については、迅速に事実調査を実施しており、再発防止策を検討し、速やかに実施しております。

反社会的勢力対策として、「行動憲章」に則り、反社会的勢力との関わりを禁止しております。また、所轄警察署との連携を深めるとともに、当社が締結する契約書には暴力団排除条項を定めております。

## (2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役会議事録をはじめ当社取締役の職務執行に係る情報の保存及び管理につきましては、「文書取扱い規程」に従い、職務執行に係る情報を書面又は電磁的に記録し、適切に保存、管理しております。また、その他重要な文書についても、「文書取扱い規程」に従い保存及び管理を行っております。営業秘密や個人情報等については、「企業秘密管理規程」「個人情報取扱い規程」「情報システム利用規程」「情報システム開発規程」等の社内規程に基づき、適切な情報管理体制を整備するとともに、セキュリティオペレーションセンターによる24時間監視体制を実施しております。また、情報管理に関する研修及び教育を実施し周知しております。

## (3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社はリスク管理を適切に行うために「トータルリスクマネジメント規程」及び各種クライシスに対して「対応要領」を定め、社内イントラネットにて周知を図っております。また、「トータルリスクマネジメント規程」に基づき、想定リスクの把握とリスクの影響度・発生頻度の評価を行い「トータルリスクマップ」を作成し、リスク対応の優先順位を決定しています。リスク対応策の立案部門と実行部門を明確にし、立案部門はリスク対応策の立案と実施状況のモニタリング、改善策の策定を行い「トータルリスクマネジメント委員会」に報告する、という一連のP D C Aを回しています。また、災害発生時においても、事業継続を確実にを行うために、主要商品について事業継続マネジメント（BCM）の円滑な運用が図れるよう定期的に見直しを行っております。「トータルリスクマネジメント委員会」は、これらの取組み結果等を取締役会に報告しています。万一クライシスが発生した場合には、関係部署及び「トータルリスクマネジメント委員会」に対し報告を行うとともに、速やかに対策本部を設置し、適切に対処する体制を整備しております。

## (4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社グループ各社において定めている「決定基準規程」に基づき、業務執行について重要度に応じて、取締役会を筆頭にマネジャーに至るまで決裁権限者を定め決裁を受ける体制を整備しております。

当社は、「取締役会規則」に基づき取締役会を原則として月1回、適宜臨時に開催するとともに、取締役及び常勤監査役を中心に構成される「業務執行会議」に取締役会の権限の一部を委譲し、また、取締役及び上席執行役員を中心に構成される「経営戦略会議」で取締役会に上程する重要な議案を事前に審議することにより、効率的な職務執行を行っております。また、職務執行の効率化を図るため、取締役会の開催に先立ち、社外取締役に対しては適宜経営戦略部担当取締役等から議案内容に関し事前説明を実施しております。さらに、執行役員制度を導入し、経営の効率化と業務執行責任の明確化を図っております。

(5) 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は「グループ会社運用規程」に基づき、子会社より定期的な報告を受けております。また、当社グループ全体のリスク管理を担当する「トータルリスクマネジメント委員会」においてグループ全体のリスクについて報告を受け、対応を審議するとともに、「グループ責任者会議」を定期的に開催し、グループ全体及び子会社各社の課題を共有し、解決に向けて協議、対応しております。子会社はその業務執行の一部について、重要度に応じ当社の取締役会等当社決定基準に基づく決裁権限者の決裁を受けるものとし、当社はその体制を整備しております。

(6) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制並びにその使用人の取締役からの独立性及び当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する体制  
現在、監査役の職務を補助する使用人はおりませんが、監査役会からの求めがあった場合には、当該使用人を置くこととし、取締役からの独立性確保のため、その詳細については監査役会の事前の同意を得ることとしております。

(7) 監査役への報告に関する体制及び監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

当社監査役は、取締役会の他、「業務執行会議」、「トータルリスクマネジメント委員会」、「コンプライアンス委員会」等の重要会議に出席し、内部統制システムの整備・運用状況を確認しております。

常勤監査役は定期的に代表取締役と面談し、また、取締役会から執行部門に権限が委譲された事案のうち、重要なものについては、決裁申請の監査を行っています。監査役は会計監査人と、また常勤監査役は監査部長と定期的及び必要に応じて意見交換を行い、緊密な連携のもと、会計監査及び業務監査を行っています。

(8) 監査役の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

当社監査役が実施した監査活動において発生した費用は適時適正に請求され、当社は当該費用を速やかに支払っております。

## 財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針の内容は次のとおりであります。

### 1. 基本方針の内容の概要

当社は、支配権の移転を伴う当社株式の大量取得提案に応じるか否かの判断は、最終的には株主の皆様ご意思に委ねられるべきものと考えております。

しかしながら、大量取得提案の中には、取得目的や取得後の経営方針等に鑑み、企業価値・株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主の皆様ごに株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、対象会社の取締役会や株主の皆様が大量取得行為の条件等について検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの等、対象会社の企業価値・株主共同の利益を毀損するものもあります。

当社は、社会に対してどのように貢献していくのかを表明した「わたしたちの使命（パーパス）」、将来に向けてこうありたい、と考える5つの姿を表現した「わたしたちが目指す未来（ビジョン）」、創業から100年を超える歴史のなかで育み、これからも揺るぎない信念としていく「わたしたちが大切にしたい（バリュー）」、そして、これらを一言で表したコーポレートメッセージである「おいしく、たのしく、すこやかに」で構成された企業理念のもと、企業活動を行っております。

常に顧客視点に立ち、社会・経済環境の変化に柔軟に対応し、経営基盤をより強固なものとしながら、企業価値・株主共同の利益の継続的・持続的向上に努めております。したがって、当社株式に対する大量取得提案が行われた場合には、当社のこのような企業価値・株主共同の利益の毀損を防止する必要があると考えております。

## 2. 基本方針実現のための取組みの概要

(1) 当社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の基本方針の実現に資する特別な取組み  
当社は、2030年に向けた長期経営計画（「2030経営計画」）及び2025年3月期から2027年3月期までの3年間を対象とする中期経営計画（「2024中期経営計画」）を策定し、持続可能な社会の実現に貢献しつつ、さらなる長期的な成長と企業価値向上に取り組んでおります。

「2030経営計画」は、「森永製菓グループは、2030年にウェルネスカンパニーへ生まれ変わります。」をビジョンとして掲げ、「事業ポートフォリオの転換と構造改革による収益力の向上」「事業戦略と連動した経営基盤の構築」「ダイバーシティ&インクルージョンの推進」を基本方針とし、財務・非財務の両面から重要経営課題を統合し、サステナブル経営を実践してまいります。

2025年3月期を初年度とする「2024中期経営計画」では、2030経営計画達成をより確実なものにするための2ndステージとして、「飛躍に向けた成長軌道の確立」をキーメッセージとして定めました。成長し続ける永続企業を目指して、重点領域の成長、経営基盤の強化に向け積極的な投資を継続するとともに、基盤領域及び機能部門を中心とした構造改革を推し進めております。また、ROICマネジメントの実践を通して、これらの戦略をスピードをもって実行することにより、成長性と資本収益性の好循環を生み出し、2030年に向けた成長軌道を確認なものにしていきます。

当社は、企業価値の最大化及び企業の永続的発展を図ることを目的に、経営の健全性及び効率性の向上、財務内容の信頼性の確保、適時適切な情報開示、法令の遵守並びに各ステークホルダーとの信頼関係の強化を基本方針としてコーポレート・ガバナンスの構築に取り組んでおります。こうした取組みの一環として、取締役の任期を1年とし、また、執行役員制度を導入し、迅速な業務執行を行うことができる体制を整えるなどしております。さらに、取締役は10名のうち4名を社外取締役とし、また、監査役は4名のうち3名を社外監査役とすることで、経営の監視機能強化を図っております。

(2) 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、2008年6月27日開催の第160期定時株主総会において、当社の企業価値、ひいては株主共同の利益の確保・向上を目的に「当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）」（以下「本プラン」といいます。）を導入し、その後3回の更新を経て、これを継続してまいりましたが、買収防衛策に関する近時の状況や国内外の機関投資家をはじめとする株主の皆様のご意見、当社を取り巻く経営環境及び市場環境を踏まえ、本プランの継続について慎重に検討した結果、2020年5月13日開催の取締役会において、本プランを継続せず、2020年6月26日開催の第172期定時株主総会の終結時をもって廃止することを決議いたしました。

当社は、本プラン廃止後も当社の企業価値、ひいては株主共同の利益の確保・向上に取り組んでまいり所存であり、当社株式の大量取得行為の提案がなされた場合には、大量取得行為の是非を株主の皆様が適切に判断するために必要かつ十分な情報の提供を求め、あわせて取締役会の意見等を開示し、株主の皆様のご検討のための時間と情報の確保に努める等、関係法令の許容する範囲内において、適切な措置を速やかに講じてまいります。

## 3. 上記の取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

上記2（1）に記載した各施策は、当社の企業価値・株主共同の利益を継続的かつ持続的に向上させるための具体的方策として策定されたものであり、基本方針の実現に資するものであります。

また、上記2（2）は、当社株式の大量取得行為の提案がなされた場合に、その是非を株主の皆様が検討するための時間と情報を確保すること等により、当社の企業価値・株主共同の利益を確保・向上させるためのものであり、基本方針に沿うものであります。

したがって、当社取締役会は、上記各取組みは当社の株主共同の利益を損なうものではなく、また、当社役員の地位の維持を目的とするものではないと考えております。

連結株主資本等変動計算書  
(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

森永製菓株式会社

単位：百万円

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	18,612	17,186	87,076	△5,252	117,623
連結子会社の決算期変更に伴う増減			196		196
連結子会社の決算期変更に伴う増減を反映した当期首残高	18,612	17,186	87,273	△5,252	117,820
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△7,893		△7,893
親会社株主に帰属する当期純利益			17,765		17,765
自己株式の取得				△4,886	△4,886
自己株式の処分		0		0	0
自己株式の消却		△0	△4,768	4,768	-
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計		0	5,103	△117	4,986
当期末残高	18,612	17,186	92,377	△5,370	122,806

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額 合計		
当期首残高	5,761	△124	4,864	2,741	13,242	1,527	132,393
連結子会社の決算期変更に伴う増減						34	231
連結子会社の決算期変更に伴う増減を反映した当期首残高	5,761	△124	4,864	2,741	13,242	1,562	132,624
連結会計年度中の変動額							
剰余金の配当							△7,893
親会社株主に帰属する当期純利益							17,765
自己株式の取得							△4,886
自己株式の処分							0
自己株式の消却							-
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	376	161	1,234	4,135	5,908	176	6,085
連結会計年度中の変動額合計	376	161	1,234	4,135	5,908	176	11,071
当期末残高	6,138	37	6,098	6,876	19,150	1,739	143,696

## 連結注記表

(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等)

### 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 15社 (主要会社名 高崎森永(株))  
非連結子会社の数 2社 (主要会社名 バクテクス(株))

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないためであります。

### 2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用の非連結子会社の数 2社 (主要会社名 バクテクス(株))

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

(連結子会社の事業年度等に関する事項の変更)

従来、連結子会社のうち決算日が2月28日であった(株)アントステラ、12月31日であった台湾森永製菓股份有限公司、米国森永製菓(株)、森永アメリカフーズ(株)、森永アジアパシフィック(株)は、各社決算日現在の計算書類を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については必要な調整を行って行いましたが、連結計算書類のより適正な開示を図るため、当連結会計年度より決算日を3月31日に変更しております。

また、従来、連結子会社のうち決算日が12月31日である上海森永食品有限公司、森永食品(浙江)有限公司は、各社決算日現在の計算書類を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については必要な調整を行って行いましたが、連結計算書類のより適正な開示を図るため、当連結会計年度より連結決算日である3月31日に仮決算を行い連結する方法に変更しております。

これらの変更に伴い、当連結会計年度は、2025年4月1日から2026年3月31日までの12ヶ月を連結しております。

なお、当該連結子会社のうち、(株)アントステラについては、2025年3月1日から2025年3月31日までの損益、その他連結子会社については、2025年1月1日から2025年3月31日までの損益を利益剰余金の増減として調整しております。

### 4. 会計方針に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### ①有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの…時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等…移動平均法による原価法

##### ②デリバティブ

時価法

##### ③主たる棚卸資産

商品及び製品

主として総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

仕掛品

主として総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

原材料及び貯蔵品

主として総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は、建物並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法、その他の有形固定資産については定率法を採用しております。在外連結子会社は、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物	15年～45年
機械装置	10年～12年

②無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

③役員株式給付引当金

役員に対する将来の当社株式の給付に備えるため、株式交付規程に基づき、役員に割り当てられたポイントに応じた株式の給付見込額を基礎として計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

②数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（キャッシュバランス型年金制度、退職一時金制度共13年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社グループは、主に菓子、食品、冷菓及びゼリー飲料等の製造及び販売を行っております。

製品の販売は、顧客へ製品を引き渡した時点で支配が顧客に移転し、履行義務を充足することになりますが、製品の出荷時から当該製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間であるため、製品の出荷時に収益を認識しております。

当該収益は、顧客との契約において約束された対価から、値引き、リベート及び返品等を控除した金額で測定しております。また、顧客との契約において約束された対価のうち、顧客に返金すると見込んでいた額については、契約条件や過去の実績等に基づき算定し、返金負債として計上しております。

(連結貸借対照表に関する注記)

有形固定資産の減価償却累計額

建物及び構築物	34,554百万円
機械装置及び運搬具	84,040百万円
リース資産	1,386百万円
その他	5,485百万円
計	125,466百万円

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当連結会計年度の末日における発行済株式の総数  
普通株式 86,111,638株

2. 当連結会計年度中に行った剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2025年6月27日 定時株主総会	普通株式	5,160	60.00	2025年3月31日	2025年6月30日
2025年11月12日 取締役会	普通株式	2,733	32.50	2025年9月30日	2025年12月17日

3. 当連結会計年度の末日後に行う剰余金の配当に関する事項

2026年6月26日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案する予定であります。

(ア) 配当金の総額・・・・・・・・・・ 2,731百万円  
(イ) 1株当たり配当額・・・・・・・・ 32.50円  
(ウ) 基準日・・・・・・・・・・・・・・ 2026年3月31日  
(エ) 効力発生日・・・・・・・・・・・・ 2026年6月29日

なお、配当原資については、利益剰余金とすることを予定しております。

また、配当金の総額には「役員報酬B I P信託」が保有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

(1株当たり情報に関する注記)

1. 1株当たり純資産額 1,690円58銭  
2. 1株当たり当期純利益 211円07銭

(注) 当社は、「役員報酬B I P信託」を導入しており、当該信託が保有する当社株式を自己株式として処理しております。これに伴い、「役員報酬B I P信託」が保有する当社株式は、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式数に含めております。また、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、必要に応じ、短期資金は銀行借入等により、長期資金は銀行借入や社債発行等により調達する方針であります。一時的な余資の運用は、安全性の高い金融資産にて行っております。デリバティブ取引は、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。一部外貨建てのものについては、為替変動リスクに晒されております。

投資有価証券である株式は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。一部、原材料等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替変動リスクに晒されております。

有利子負債は、主に営業取引や設備投資に係る資金調達を目的とした借入金及び社債であります。一部、変動金利であるため金利変動リスクに晒されております。

デリバティブ取引は、製品及び原材料の輸出入等による為替変動リスクに対するヘッジを目的とした為替予約取引であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権については、社内規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を定期的に把握するなど、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

デリバティブ取引利用については、信用リスクを軽減するために、格付けの高い銀行とのみ取引を行っております。

②市場リスク（為替や市場価格等の変動リスク）の管理

外貨建金銭債権債務については、為替変動リスクに対して為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、リスクが懸念されるものについては、保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引については、経理部長が主管となり、取引の内容に応じ社内規程に定められた手続きに基づいて決定しております。その決定された取引の執行及び管理は各関連部門で行われ、常にデリバティブ取引の残高状況、評価損益状況を把握したうえで随時経理部長に報告し、経理部長は必要と認められる場合に随時ポジション状況等を経理部担当取締役等に報告しております。また、経理部担当取締役は必要と認めたデリバティブ取引の執行状況について、四半期ごとに取締役会に報告しております。

③資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社及び主要な国内連結子会社でCMS（キャッシュマネジメントシステム）を利用し、資金を一元管理する等の方法により流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2026年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位 百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1)投資有価証券			
その他有価証券（注2）	9,732	9,732	-
資産計	9,732	9,732	-
(1)社債	9,000	8,825	△175
(2)長期借入金	7,000	6,815	△185
(3)受入敷金保証金	3,625	3,029	△596
負債計	19,625	18,669	△956
デリバティブ取引（注3）	44	44	-

(注1) 「現金及び預金」「受取手形及び売掛金」「支払手形及び買掛金」「短期借入金」「未払金」については、現金であること及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注2) 市場価格のない株式等は、「(1)投資有価証券 その他有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位 百万円)

区分	連結貸借対照表 計上額
非上場株式	298

(注3) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

### 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

#### (1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

(単位 百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	9,732	—	—	9,732
デリバティブ取引				
通貨関連	—	54	—	54
資産計	9,732	54	—	9,787
デリバティブ取引				
通貨関連	—	10	—	10
負債計	—	10	—	10

#### (2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(単位 百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
社債	—	8,825	—	8,825
長期借入金	—	6,815	—	6,815
受入敷金保証金	—	3,029	—	3,029
負債計	—	18,669	—	18,669

#### (注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

##### 投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

##### デリバティブ取引

為替予約の時価は、観察可能なインプットである為替レートをを用いて算定しており、レベル2の時価に分類しております。

##### 社債

当社の発行する社債の時価は、市場価格に基づき算定しております。社債の時価は、市場価格があるものの活発な市場で取引されていないため、レベル2の時価に分類しております。

## 長期借入金

長期借入金の時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定しており、レベル2の時価に分類しております。

## 受入敷金保証金

主としてゴルフ会員権の時価は、返還時期を見積もった上で、将来キャッシュ・フローを市場金利で割り引いて算定しており、レベル2の時価に分類しております。

### (賃貸等不動産に関する注記)

#### 1. 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社グループは、東京都その他の地域において、賃貸用商業施設等（土地を含む）を有しております。

#### 2. 賃貸等不動産の時価に関する事項

(単位 百万円)

連結貸借対照表計上額	時価
2,271	21,754

(注1) 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

(注2) 当期末の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額、その他の物件については不動産鑑定評価基準に基づいて自社で算定した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む。）であります。

### (税効果会計に関する注記)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

#### 繰延税金資産

返金負債及び未払費用（販売促進費）	1,540百万円
賞与引当金	1,060百万円
退職給付に係る負債	1,707百万円
退職給付信託設定額	1,322百万円
減価償却超過額及び減損損失	202百万円
投資有価証券評価損	20百万円
未実現固定資産売却益	282百万円
繰越欠損金	884百万円
その他	1,757百万円
繰延税金資産小計	8,778百万円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	△881百万円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△312百万円
評価性引当額小計	△1,193百万円
繰延税金資産合計	7,584百万円

#### 繰延税金負債

退職給付に係る資産	△3,406百万円
固定資産圧縮積立金	△1,400百万円
その他有価証券評価差額金	△2,513百万円
その他	△726百万円
繰延税金負債合計	△8,047百万円
繰延税金資産（△は負債）純額	△462百万円

(退職給付会計に関する注記)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社（一部を除く）は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度を採用しております。また、当社は確定給付企業年金制度として市場金利連動型のキャッシュ・バランス・プランを導入しております。

確定給付企業年金制度には、退職給付信託が設定されております。退職一時金制度（非積立型制度であります。退職給付信託を設定した結果、積立型制度となっているものがあります。）では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

なお、連結子会社（一部を除く）が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

退職給付債務の期首残高	18,836百万円
勤務費用	795百万円
利息費用	160百万円
数理計算上の差異の発生額	△2,289百万円
退職給付の支払額	△945百万円
その他	5百万円
退職給付債務の期末残高	16,563百万円

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

年金資産の期首残高	25,561百万円
期待運用収益	383百万円
数理計算上の差異の発生額	4,294百万円
事業主からの拠出額	217百万円
退職給付の支払額	△436百万円
その他	21百万円
年金資産の期末残高	30,042百万円

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	1,657百万円
退職給付費用	196百万円
退職給付の支払額	△112百万円
退職給付に係る負債の期末残高	1,742百万円

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び

退職給付に係る資産の調整表	
積立型制度の退職給付債務	16,563百万円
年金資産	△30,042百万円
	△13,478百万円
非積立型制度の退職給付債務	1,742百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△11,736百万円
退職給付に係る負債	1,742百万円
退職給付に係る資産	△13,478百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△11,736百万円

(注) 簡便法を適用した制度を含めております。

- |                       |         |
|-----------------------|---------|
| (5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額 |         |
| 勤務費用                  | 795百万円  |
| 利息費用                  | 160百万円  |
| 期待運用収益                | △383百万円 |
| 数理計算上の差異の費用処理額        | △571百万円 |
| 過去勤務費用の費用処理額          | 17百万円   |
| 簡便法で計算した退職給付費用        | 196百万円  |
| 確定給付制度に係る退職給付費用       | 215百万円  |
- (6) 退職給付に係る調整額  
退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。
- |          |          |
|----------|----------|
| 数理計算上の差異 | 6,012百万円 |
| その他      | 25百万円    |
| 合計       | 6,037百万円 |
- (7) 退職給付に係る調整累計額  
退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。  
未認識数理計算上の差異 △10,011百万円
- (8) 年金資産に関する事項
- ①年金資産の主な内訳  
年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。
- |            |        |
|------------|--------|
| 国内債券       | 7.7%   |
| 国内株式       | 36.9%  |
| 外国債券       | 2.0%   |
| 外国株式       | 4.9%   |
| 現金及び預金     | 2.6%   |
| 保険資産（一般勘定） | 11.3%  |
| 投資信託受益証券   | 27.6%  |
| その他        | 7.0%   |
| 合計         | 100.0% |
- （注）年金資産合計には、退職給付信託が63.3%含まれております。
- ②長期期待運用収益率の設定方法  
年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。
- (9) 数理計算上の計算基礎に関する事項  
当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）
- |           |           |
|-----------|-----------|
| 割引率       | 2.4%～2.6% |
| 長期期待運用収益率 | 1.5%      |
- なお、当社はポイント制を採用しているため、退職給付債務の算定に際して予想昇給率を使用しておりません。

## (収益認識に関する注記)

## 1. 収益の分解

(単位 百万円)

報告セグメント	主な製品・地域区分	連結損益計算書計上額
食料品製造	菓子食品事業	88,957
	冷菓事業	53,528
	i n事業	29,955
	通販事業	10,748
	事業子会社等	11,276
	国内計	194,466
	米国事業	20,214
	中国・台湾・輸出等	10,486
	海外計	30,700
	小計	225,167
食料卸売	業務用食品の卸売	8,798
不動産及びサービス	ゴルフ場経営	758
その他 (注)		809
顧客との契約から生じる収益 合計		235,533
不動産及びサービス	不動産賃貸	1,139
その他の収益 合計		1,139
外部顧客への売上高 合計		236,672

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、研究用試薬の製造販売他であります。

## 2. 収益を理解するための基礎となる情報

「連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等 4. 会計方針に関する事項 (5) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載しております。

## 3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

## (1) 顧客との契約から生じた債権及び契約負債の残高等

当社グループにおいては、契約資産の残高がなく、また、契約負債については、残高に重要性が乏しく、重大な変動も発生していないため、記載を省略しております。また、過去の期間に充足（又は部分的に充足）した履行義務から、当連結会計年度に認識した収益に重要な金額はありません。

## (2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループの残存履行義務に配分した取引価格については、当初に予想される契約期間が1年を超える重要な契約がないため、実務上の便法を適用し、記載を省略しております。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

(重要な後発事象に関する注記)

1. 取得による企業結合

当社は、2026年3月6日開催の取締役会において、米国最大手のモチアイス製造企業であるThe Mochi Ice Cream Company, LLCの全持分を間接的に保有するMyMo Holdco, Inc.の全株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結しました。また、2026年4月1日付で株式を取得したことにより子会社化しました。

(1) 企業結合の概要

①被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 MyMo Holdco, Inc.  
事業の内容 グループ会社の管理・運営

②企業結合を行った主な理由

当社グループは、2021年より長期経営計画「2030経営計画」を掲げ、持続的な企業価値向上に向けた取組みを進めております。2030年度に向けては、パーパスの実現を起点に、世界のお客様に笑顔を届けるためのグローバル企業への成長を目指し、当社グループが長年培ってきた強みを活かした展開を推進しております。

本件は、2030経営計画の達成及びその先の持続的成長を見据えた、米国におけるバリューチェーンの獲得を目的とするものです。米国のアイスクリーム市場は中長期的に安定した成長基調にあり、個食ノベルティやグリーンラベル志向、プレミアム化の進展が確認されるなど、今後も持続的な成長が見込まれております。

当社グループは、本件で獲得する米国冷菓事業のバリューチェーンを活かした戦略展開を通じて事業ポートフォリオの転換を推進し、2030経営計画の達成を確実なものにするとともに、さらにその先を見据えた成長戦略の具体化を段階的に進めてまいります。

③企業結合日

2026年4月1日

④企業結合の法的形式

株式取得

⑤結合後企業の名称

名称に変更はありません。

⑥取得した議決権比率

100%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

現金を対価とした株式取得のため

(2) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	130百万米ドル〔20,849百万円〕
-------	----	---------------------

取得原価	130百万米ドル〔20,849百万円〕
------	---------------------

※本株式取得の完了日における正味運転資本や純有利子負債等を考慮した一般的な調整は、現時点では確定していません。

※〔 〕内の円換算額は、株式取得日2026年4月1日の支払為替レートに基づき算定しております。

(3) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザリー費用等：5百万米ドル〔894百万円〕

※〔 〕内の円換算額は、支払為替レートに基づき算定しております。

(4) 発生したのれんの金額及び発生原因、取得日現在における取得資産及び引受負債の公正価値

現時点では確定していません。

2. 多額な資金の借入

当社は上記「1. 取得による企業結合」に記載したMyMo Holdco, Inc.の株式取得のため、2026年4月1日付で金融機関から資金の借入を実施しております。

借入先：株式会社三菱UFJ銀行

借入金額：23,937百万円

借入金利：基準金利＋スプレッド

借入実行日：2026年4月1日

借入期間：2026年4月1日～2027年3月31日

返済方法：手元現預金及びリファイナンス予定資金

担保、保証の有無：無

(その他の注記)  
該当事項はありません。

株主資本等変動計算書  
(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

森永製菓株式会社  
単位：百万円

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金			利益剰余金 合計
					固定資産圧縮 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	18,612	17,186	－	17,186	3,218	7,000	48,631	58,849
事業年度中の変動額								
剰余金の配当							△7,893	△7,893
固定資産圧縮積立金の取崩					△182		182	－
当期純利益							15,093	15,093
自己株式の取得								
自己株式の処分			0	0				
自己株式の消却			△0	△0			△4,768	△4,768
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)								
事業年度中の変動額合計			0	0	△182		2,614	2,431
当期末残高	18,612	17,186	0	17,186	3,035	7,000	51,245	61,281

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△5,252	89,396	5,439	△118	5,321	94,717
事業年度中の変動額						
剰余金の配当		△7,893				△7,893
固定資産圧縮積立金の取崩		－				－
当期純利益		15,093				15,093
自己株式の取得	△4,886	△4,886				△4,886
自己株式の処分	0	0				0
自己株式の消却	4,768	－				－
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)			376	155	532	532
事業年度中の変動額合計	△117	2,313	376	155	532	2,846
当期末残高	△5,370	91,710	5,816	37	5,854	97,564

## 個別注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式・・・・・・・・移動平均法による原価法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの・・・・・・・・時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等・・・・・・・・移動平均法による原価法

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

製 品・・・・・・・・総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

仕 掛 品・・・・・・・・総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

原材料及び貯蔵品・・・・・・・・総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

建物並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法、その他の有形固定資産については定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、建物15年～45年、構築物10年～45年、機械装置10年～12年であります。

#### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

#### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

### 3. 引当金の計上基準

(1) 貸 倒 引 当 金・・・・・・・・債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞 与 引 当 金・・・・・・・・従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

(3) 退 職 給 付 引 当 金・・・・・・・・従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

#### ① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

#### ② 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（キャッシュバランス型年金制度、退職一時金制度共13年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(4) 役員株式給付引当金・・・・・・・・役員に対する将来の当社株式の給付に備えるため、株式交付規程に基づき、役員に割り当てられたポイントに応じた株式の給付見込額を基礎として計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社は、主に菓子、食品、冷菓及びゼリー飲料等の製造及び販売を行っております。

製品の販売は、顧客へ製品を引き渡した時点で支配が顧客に移転し、履行義務を充足することになります。製品の出荷時から当該製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間であるため、製品の出荷時に収益を認識しております。

当該収益は、顧客との契約において約束された対価から、値引き、リベート及び返品等を控除した金額で測定しております。また、顧客との契約において約束された対価のうち、顧客に返金すると見込んでいる額については、契約条件や過去の実績等に基づき算定し、返金負債として計上しております。

5. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

退職給付に係る会計処理・・・退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結貸借対照表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産の減価償却累計額

建	物	25,314	百万円
構	築	3,423	百万円
機	械	66,448	百万円
車	両	371	百万円
工	具	4,439	百万円
リ	ー	1,182	百万円
計		101,179	百万円

2. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

短	期	金	銭	債	権	3,713	百万円
長	期	金	銭	債	権	400	百万円
短	期	金	銭	債	務	26,691	百万円

(損益計算書に関する注記)

関係会社との取引高

営業取引による取引高

売	上	高	3,655	百万円
仕	入	高	54,598	百万円
営業取引以外の取引による取引高			2,881	百万円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

当事業年度の末日における自己株式の数 2,142,176 株

(注) 自己株式の数には役員報酬B I P信託が保有する当社株式(当事業年度末80,784株)が含まれております。

## (税効果会計に関する注記)

## 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産		
返金負債及び未払費用（販売促進費）	1,322	百万円
未払事業税	207	百万円
賞与引当金	761	百万円
退職給付引当金	2,426	百万円
退職給付信託設定額	1,322	百万円
減価償却超過額及び減損損失	79	百万円
関係会社株式評価損	3,347	百万円
投資有価証券評価損	20	百万円
その他	782	百万円
繰延税金資産小計	10,270	百万円
評価性引当額	△3,431	百万円
繰延税金資産合計	6,839	百万円
繰延税金負債		
前払年金費用	△1,538	百万円
固定資産圧縮積立金	△1,395	百万円
その他有価証券評価差額金	△2,644	百万円
その他	△333	百万円
繰延税金負債合計	△5,911	百万円
繰延税金資産（△は負債）純額	927	百万円

## (関連当事者との取引に関する注記)

## 子会社及び関連会社等

(単位 百万円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	高崎森永(株)	所有 直接100%	当社製品の製造	原材料の有償支給（注1）	11,559	流動資産 その他	1,803
				製品の購入（注1）	30,665	買掛金	2,690
			資金貸借取引	CMSによる預り（注2）	-	預り金	11,678
				利息の支払	32	未払費用	-
子会社	森永商事(株)	所有 直接100%	資金貸借取引	CMSによる預り（注2）	-	預り金	2,805
				利息の支払	6	未払費用	-

## 取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 一般取引と同様に、毎期交渉の上、取引条件を決定しております。

(注2) 子会社からのCMS（キャッシュマネジメントシステム）による資金の預りについては、市場金利を勘案し、利率を合理的に決定しております。また資金の預りは、適宜実行しているため、取引金額は記載せずに、期末残高のみ記載しております。

## (1株当たり情報に関する注記)

- 1株当たり純資産額 1,161円90銭
- 1株当たり当期純利益 179円32銭

(注) 当社は、「役員報酬B I P信託」を導入しており、当該信託が保有する当社株式を自己株式として処理しております。これに伴い、役員報酬B I P信託が保有する当社株式は、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式数に含めております。また、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

(収益認識に関する注記)

(収益を理解するための基礎となる情報)

「重要な会計方針に係る事項に関する注記 4. 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象に関する注記)

1. 取得による企業結合

当社は、2026年3月6日開催の取締役会において、米国最大手のモチアイス製造企業であるThe Mochi Ice Cream Company, LLCの全持分を間接的に保有するMyMo Holdco, Inc.の全株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結しました。また、2026年4月1日付で株式を取得したことにより子会社化しました。

(1) 企業結合の概要

①被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 MyMo Holdco, Inc.

事業の内容 グループ会社の管理・運営

②企業結合を行った主な理由

当社グループは、2021年より長期経営計画「2030経営計画」を掲げ、持続的な企業価値向上に向けた取組みを進めております。2030年度に向けては、パーパスの実現を起点に、世界のお客様に笑顔を届けるためのグローバル企業への成長を目指し、当社グループが長年培ってきた強みを活かした展開を推進しております。

本件は、2030経営計画の達成及びその先の持続的成長を見据えた、米国におけるバリューチェーンの獲得を目的とするものです。米国のアイスクリーム市場は中長期的に安定した成長基調にあり、個食ノベルティやグリーンラベル志向、プレミアム化の進展が確認されるなど、今後も持続的な成長が見込まれております。

当社グループは、本件で獲得する米国冷菓事業のバリューチェーンを活かした戦略展開を通じて事業ポートフォリオの転換を推進し、2030経営計画の達成を確実なものにするとともに、さらにその先を見据えた成長戦略の具体化を段階的に進めてまいります。

③企業結合日

2026年4月1日

④企業結合の法的形式

株式取得

⑤結合後企業の名称

名称に変更はありません。

⑥取得した議決権比率

100%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

現金を対価とした株式取得のため

(2) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価 現金 130百万米ドル〔20,849百万円〕

取得原価 130百万米ドル〔20,849百万円〕

※本株式取得の完了日における正味運転資本や純有利子負債等を考慮した一般的な調整は、現時点では確定していません。

※〔〕内の円換算額は、株式取得日2026年4月1日の支払為替レートに基づき算定しております。

(3) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等：5百万米ドル〔894百万円〕

※〔〕内の円換算額は、支払為替レートに基づき算定しております。

(4) 発生したのれんの金額及び発生原因、取得日現在における取得資産及び引受負債の公正価値

現時点では確定していません。

## 2. 多額な資金の借入

当社は上記「1. 取得による企業結合」に記載したMyMo Holdco, Inc.の株式取得のため、2026年4月1日付で金融機関から資金の借入を実施しております。

借入先：株式会社三菱UFJ銀行

借入金額：23,937百万円

借入金利：基準金利＋スプレッド

借入実行日：2026年4月1日

借入期間：2026年4月1日～2027年3月31日

返済方法：手元現預金及びリファイナンス予定資金

担保、保証の有無：無

(その他の注記)

該当事項はありません。